

「長野県の金融経済動向」（9月）の前回との比較

2015年9月

2015年7月

（総論）

長野県経済は、生産の一部になお弱さを残しつつも、緩やかに回復しつつある。	長野県経済は、生産の一部になお弱さを残しつつも、緩やかに回復しつつある。
--------------------------------------	--------------------------------------

（各論）

公共投資	高水準ながら緩やかな減少傾向となっている。	高水準ながら緩やかな減少傾向となっている。
住宅投資	底堅く推移している。	底堅く推移している。
設備投資	緩やかに増加している。	緩やかに増加している。
個人消費	一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある。	一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある。
生産	緩やかに回復しているものの、一部に弱さがみられる。	一部になお弱さを残しつつも、緩やかに回復している。
雇用・所得	着実な改善が続いている。	着実な改善が続いている。

1. 実体経済

（生産）

IT関連	半導体関連および電子部品は、スマートフォン向けの増勢に一服感がみられることなどから、生産は横ばい圏内の動きとなっている。	半導体関連および電子部品は、自動車関連に弱さが残るものの、スマートフォン向け需要の好調さを受けて、生産は改善テンポの鈍化した状態から脱しつつある。
自動車関連	北米向け等の海外需要が堅調なものの、国内向けで一部に弱さがみられることから、生産は横ばい圏内の動きとなっている。	北米向け等の海外需要が堅調なものの、国内向けで一部に弱さがみられることから、生産は横ばい圏内の動きとなっている。
機械・同関連部品等	工作機械は、中小企業の設備投資姿勢の慎重さが後退しているほか、内外需要の増加により、生産は緩やかに回復している。成形機は、内外需要の増加により、生産は緩やかに回復している。計器は、自動車向け等の需要が堅調なことから、生産は高めの水準で推移している。バルブは、プラント向け需要が堅調なことから、生産は高めの水準で推移している。	工作機械は、中小企業の設備投資姿勢の慎重さが後退しているほか、内外需要の増加により、生産は緩やかに回復している。成形機は、内外需要の増加により、生産は緩やかに回復している。計器は、自動車向け等の需要が増加しつつあることから、生産は持ち直している。バルブは、足もと減少しているものの、プラント向け需要が堅調なことから、生産は高めの水準で推移している。
飲料	弱含んでいる。	弱い動きもみられるが、緩やかに持ち直している。

(個人消費)

大型小売店 売上高	7月は一部に弱さがみられるものの、消費者マインドの持ち直しを背景に緩やかに回復しつつある。	5月は一部に弱さがみられるものの、消費者マインドの持ち直しを背景に緩やかに回復しつつある。
家電販売	7月は一部に持ち直しの動きがみられることから、全体としては前年を上回った。	5月は一部に持ち直しの動きがみられることから、全体としては前年を上回った。
自動車販売	8月は前年を上回った。	5月は前年を下回った。

(公共・住宅投資)

公共工事請負額	7月は市町村の発注分が増加したものの、国、県、独立行政法人等の発注分が減少したことから、全体では前年を下回った。	5月は県、独立行政法人等の発注分が増加したものの、国、市町村の発注分が減少したことから、全体では前年を下回った。
住宅着工戸数	7月は持家、貸家、分譲が増加したことから、前年を上回った。	5月は持家、貸家、分譲が減少したことから、前年を下回った。

(雇用・所得)

雇用・所得	有効求人倍率をみると、7月は新規求人数が増加していることから、回復している。所得面では、6月は常用雇用者数が前年を下回ったものの、一人当たり名目賃金が前年を上回ったことから、雇用者所得は前年を上回った。	有効求人倍率をみると、5月は新規求人数が増加していることから、回復傾向にある。所得面では、4月は一人当たり名目賃金が前年並みとなった中、常用雇用者数が前年を上回ったことから、雇用者所得は前年を上回った。
-------	---	---

(物 価)

消費者物価 (除く生鮮食品)	7月は交通・通信や光熱・水道が下落したことを主因に、前年を下回った。	5月は前年並みとなった。
-------------------	------------------------------------	--------------

2. 金 融

貸 出 金	7月は前年を上回っている。企業向けは、運転資金需要が弱含んでいるものの、設備資金需要に持ち直しの動きが広がっている。個人向けは、前年を上回って推移している。こうした中、貸出約定平均金利は、緩やかに低下している。	5月は前年を上回っている。企業向けは、運転資金需要に一服感がみられるものの、設備資金需要に持ち直しの動きが広がっている。個人向けは、概ね横ばいで推移している。こうした中、貸出約定平均金利は、緩やかに低下している。
預 金	7月は個人・法人預金ともに、前年を上回って推移している。	5月は個人・法人預金ともに、前年を上回って推移している。